２０２６年１１月１０日

各　　位

大阪信用金庫
理事長 髙井 嘉津義

定例調査：第２０９回 景気動向調査（７～９月期）

☆売上・収益ＤＩはマイナス圏続く・・・・・・・売上ＤＩ-3.4 収益ＤＩ-10.4

☆問題点「仕入単価上昇」８割に迫る・・・・・77.6%（前回比＋23.7ポイント）

☆設備投資「予定あり」は低下・・・・・・・・・11.4%（前回比△2.7ポイント）

☆10～12月期見通しも慎重・・・・・・・・・・売上ＤＩ-1.8　収益ＤＩ-11.1

☆来春の採用予定企業は減少・・・・・・・・・「採用する」25.1%（前年32.6%）

●売上・収益ＤＩ改善も、依然マイナス圏

総合では、売上 DI は－3.4（前回比＋4.0 ポイント）、収益 DI は－10.4（同＋5.3 ポイント）となり、いずれも改善しましたがマイナス圏が続きました。販売価格 DI は 28.7（同＋2.5 ポイント）、販売数量 DI は－8.2（同＋6.7 ポイント）となり、価格・数量ともに改善したものの、販売数量は減少回答が増加回答を上回っています。10～12 月期は、売上 DI－1.8、収益 DI－11.1 の見通しです。

●経営上の問題点「仕入単価上昇」8 割に迫る

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が 77.6%（前回比＋23.7 ポイント）で最多となりました。「一般経費増大」は 52.9%（同＋6.3 ポイント）、「売上停滞・減少」は 45.5%（同△2.1 ポイント）でした。仕入コストや一般経費の上昇を問題点に挙げる企業が増えています。

製造業、卸売業、飲食業では「仕入単価上昇」を挙げた企業の割合が 85%を上回りました。

●設備投資「予定あり」は低下

設備投資は、「実施中」が 15.5%（前回比＋1.9 ポイント）、「予定あり」が 11.4%（同△2.7 ポイント）で、合計 26.9%となりました。合計は前回の 27.7%から 0.8 ポイント低下しました。

●10～12 月期見通しも慎重

10～12 月期の見通しは、売上 DI が-1.8、収益 DI が-11.1 となりました。

いずれもマイナス圏が続く見通しで、先行きに対する慎重な姿勢がうかがえます。

●来春の採用予定企業は減少

来年度に「採用する」と回答した企業は 25.1%となり、前年の 32.6%から 7.5 ポイント低下しました。内訳は「昨年より増員」が 12.6%（前年比△2.8 ポイント）、「昨年と同数」が 11.0%（同△5.8 ポイント）でした。

増員予定の割合を業種別に見ると、運輸業が 25.9%、小売業が 17.5%となりました。

調査時点：2026 年 8 月下旬～9 月初旬
対象期間：2026 年 7～8 月期（実績）・9 月（予想値）　2026 年 10～12 月期（見通し）
対象企業：当金庫お取引先 1,469 社（大阪府内、尼崎市）
回答企業数：502 社（回答率 34.2%）（調査票郵送・Web で回答）

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします
だいしん総合研究所（担当：森）
TEL:(06)6775-6590　FAX：(06)6773-0612
E-mail：souken@osaka-shinkin.co.jp　URL：https://www.osaka-shinkin.co.jp